

私自身のための出版



相模原・上溝の作業小屋 平成18年 加藤忠一著『アクリル淡彩で描く トタン屋根の風景』より



出版を考え直す

何のためにデジタルで出版などするのでしょうか? はじめは誰もが否 定的な意見を述べました。相手にしない人さえ多かったとおもいます。10年、 20年、時が経つにしたがってデジタルは着実な進歩と浸透をはたしました。 いまや誰の日常生活のうえにもデジタルは舞いおりているといっていい状 況です。

出版はどうでしょうか。"電子書籍"はたしかに普及しているように見え ます。けれど溢れんばかりに刷り尽くした紙の本を"電子書籍"にしている だけのように見えます。ある人はprint under glass(印刷本をわざわざガ ラス越しに見ている)と揶揄したくらいです。出版が本当にデジタルの恩 恵を得ているのかどうか、まだ簡単には答えはだせません。

この20年、出版産業はその市場規模を減少させました。確実に売れるで あろう内容に焦点をしぼる姿勢を強化していきました。何が売れるのか、 あらゆる手段をつかって答えを導きだし、分析し、過去の実績をより深くみ るようになりました。これによって救われた面があったのは事実でしょう。 けれど、失われた面のあったことも忘れてはなりません。売れそうもない とおもわれた作品は徹底的に排除されていったのです。内容的な硬さ、無 名な作家、テーマの個人的なこだわりというものが挙げられるでしょう。 これらの事柄は、多様性という実は出版の一番大切な部分であったはずの ものです。

そもそも、出版とはどういうメディアであったのか、出版に対する考えの 違いが大きな問題提起となってきました。メディアが集金システムを伴っ て成り立っていることはみんなわかっています。メディアはけれど情報= 事実・知識・意見を伝播する手段であるわけです。大きな目的を集金システ ムがおおい隠し、奪い、弱めていったとおもいます。

デジタルの出版はこの状況の中に産声をあげたのです。だからこそ、出版のメディアとしての役割についてこだわるのです。自立した道を進もう としたのです。デジタルにはそれを可能にする力があります。

この力を引き出すのは誰でしょうか……… 私たち自身です。

1

▶ 素晴らしい作品であるかどうか

読者のために、作家のために、役に立つ電子出版をめざしながら、幾度と なく挫折を繰り返しました。原因は多々ありました。ある特定の機種や一 部のOSに依存しすぎたために出版という普遍性から離れてしまったこと は最大の失敗でした。出版はハードを売るための道具ではないのです。い くつかの教訓が生まれました。

○できるだけシンプルに虚飾を排すこと。

○機種に依存することなくどんな環境でも閲覧できること。

○世界の共通性に基づきいつまでも残る出版データであること。

こうした反省をもとに、やっと"ロマンサー(Romancer)"という出版ツー ルにたどりつきました。そしてそこでつくられる作品を見つめてきました。 未来の作家との連帯こそメディアとしての自立だと信じてきたからです。

何に作家は重きを置こうとしているのか。何を訴えようとしているのか。 表現が見事にできあがっている作品も、もがいている作品も多々ありました。

出版を成り立たせる根本は、作品であり作品を生み出す作家です。デジ タルであるかないかは関係ありません。素晴らしい作品であるかどうかと いう勝負があるだけです。

驚くことに、最近になって作品の完成度、作家の迫力がみなぎってきたの です。内容の重みが群を抜いて向上してきました。それは作品自身に潜む パワーであり、読者の心を揺る作家の息づかいであり、体験というその人の ^んきょう 偏狭な世界が、決して限られたものではなく共感というひろがりに通じる ものである証拠を示していました。

あらためて、私たちは伝えるべきかずかずの物語を一身に背負っている 存在なのだということをおもい知らされます。だから市井の作家に声援を 送り、失敗を恐れずに何度もトライできる"広場"を確立することは、出版 活動そのものであり社会にとって欠くことのできない仕事なのです。知ら なかった事実も、知識も、意見も、そこから汲み取っていけるチャンスをつ かむことができます。私たちに訪れる本当の時間がやってきたのです。

▶ 新しい創造はきっと生まれる

"ロマンサー(Romancer)"でつくられた『アクリル淡彩で描く トタン屋 根の風景』という画集があります。なにげない民家や商家を描いた25枚の 絵から構成されています。ページを開くと、あゝどこかで見た風景だなと おもうようなトタン屋根の家があらわれます。

しばらくそれを見つめながら、添えられた一文が目に入ります。この言葉だけでも民家の絵と調和して心打つものを感じます。けれど、付け加えられた最後の一行がありました。その後取り壊された……と。

この作家は、加藤忠一さんという鉄板に表面処理する技術者だった人です。 (ぼうしょく 化学の専門家で鉄鋼の会社に入り、鉄に施す化学的な防蝕メッキを生業と していました。そこに思い出の風景があり、過ぎ去った時間があり、トタン があり、錆びない、朽ちない技術をもってしても濃え去ってしまうものの哀 れを彼は絵の中に込めたのです。「その後取り壊された」の一言に、老いた るものの無力にして発したなにかを感じます。

すこし調べていくと、おなじ作家にこのほかにいくつもの作品がありま した。そのなかに『ブリキとトタンとブリキ屋さん』という一冊があります。 内容をみると、ブリキとトタンの出現から発展、生活に生かされていく歴史、 関わった職人たち、製造技術の進化と変化、競合と共生、ここまで言及され た大論文であることがわかります。

『アクリル淡彩で描く トタン屋根の風景』を初めて目にしたとき生じた ハッとするなんともいえない哀愁、この背景には作家のブリキとトタンに 対するなみなみならぬ関わりと想いがあったわけです。

加藤忠一さんの書かれた作品は、おそらく今の出版界が受け入れること のないテーマであったのではないかとおもいます。「売れない」を理由に作 品はきっと拒否されたでありましょう。しかし、加藤さんはデジタル出版 という手段を利用して、一人で見事に作品を公表したのです。

新しい創造はきっと生まれます。華々しい拍手や喝采とは無縁に、とぼと ぼと道を行く漢を華らした少年のように素朴で頼りなげな姿であるかもし れません。その姿にデジタルの出版は限りない声援をおくりたいとおもいます。 私たちが作家と出会うとは、こういうことだったのです。 加藤忠一さんとの出会いをとおして、これからのお話を進めていきたい とおもいます。



本小冊子の表紙になった風景は『アクリル淡彩で描く トタン屋根の風景』からのものです。加藤忠一さんとの出会いは、ここでのお話の契機となりました。 ほかにも多くのアクリル淡彩の画集を出されているだけでなく、加藤忠一さんは専門的な著作も書かれており、そのなかには『高度経済成長を支えた昭和 30年代の工業高校卒業生』という大部な作品もあります。

() 作品URL:http://r.binb.jp/epm/e1_6733_24022015070220

『アクリル淡彩で描く トタン屋根の風景』の作家は、描いた絵にちょっと した文章を付記して、自分のおもうレイアウトに表現したいと考えました。 いくつかのソフトを使いこれをEPUBという一般的な電子出版共通フォー マットにしようと試みます……しかし、おもうように行きませんでした。 結果、レイアウトを優先した固定版面のPDFがえらばれていったのです。

こう考えるのは自然な流れだったとおもいます。そしてこの方法であれば 自分自身でアマゾンでもどこでも販売を開始することができたのです。

ある日、作品はRomancerにも公開されることになりました。多くの注 目を集めました。一方で、作品をどんな電子端末で読者は読むのだろうか、 という考えが頭に浮かびました。画集なのにあえて「読む」と言ったのは、 アクリル淡彩の絵に付いた文章の哀愁がたまらなかったからです。短いけ れど文章の一字一句が非常に大切でした。

絵と文章を一致させて一画面に表示する……紙の本ではあたりまえの ことですが、デジタルの本ではうまくいきません。紙の本とは違い読者の 見ている画面が一定ではないのです。そのことを忘れずにいてほしいわけ です。とくにモバイル環境での読書では文字が小さくなるという問題が出 てきます。せっかくの作品だからできるだけ多くの人に読んで欲しい。大 きな画面のデバイスだけでなく、スマートフォンでも読みやすい本にしたい、 そのためにどうしたらいいのか?

▶ 固定レイアウト型とリフロー型

タブレットでは読めるけれど、スマートフォンでは読みにくい………これは一言でいえば、文字が小さいことにつきます。絵本なら、大きめに文字 を書くという方法もあるでしょう。コミックの場合は指で拡大して読むこ ともできます………それだけでしょうか?

デジタルの本は、「固定レイアウト型」と「リフロー型」に分けられます。 固定レイアウト型とは、大きな画面でも小さな画面でもレイアウトは同じ です。レイアウトは変わらず、画面サイズに合わせて、たて・よこ比率は一 定に縮小・拡大します。PDFはこの典型です。

リフロー型とはその逆に、画面のサイズに応じて自動的にレイアウトを 変化させ表示するものです。画面が小さくなれば、表示される文字の量はペー ジからはみ出し、次ページへ流れていきます。これがリフローです。

そうはいっても、あまり複雑なレイアウトには適応できません。雑誌な ど見栄えを重んじる複雑なレイアウトをどうするか、現在こうした"複雑 系リフロー"へのチャレンジが盛んにおこなわれている最中です。

リフロー型で自動的に再レイアウトされることを前提に、『アクリル淡彩 で描く トタン屋根の風景』を作り直してみたいとおもいます。

リフロー型の本をつくるために、MS Wordのファイル(docx形式)で原 稿を用意することから始めてみます。Romancerは、このWordファイルを 円滑に、一定品質を保って、電子出版の標準フォーマットEPUBへと導きます。

5

絵と文章の構成を考える

『アクリル淡彩で描く トタン屋根の風景』はどのような内容構成になって いるでしょう。

- はじめに
- 目次
- 本文
- 関連資料
- 奥付

という構成となっています。その内容をもう少し詳しく見ていきます。

1.はじめに

トタン屋根とはどんなものか、なぜトタン屋根に興味をひかれたのか、作 者のメッセージがまえがきとして書かれています。

通常のテキストの文章ですから、じっくり読めるようにしたいですし、画面サイズに応じて文字の大きさが変更できるようにしたいところです。 PDFにしてレイアウトを固定すれば、画面サイズの小さなスマートフォンではよく読めないものになってしまいます。《 愛照 図-1-1》



2. 目次

次のページは目次です。描かれた25枚の絵、それぞれが目次となって瞬時にアクセスできるようにします。

通常の紙の本のように目次の項目と、それが何ページにあるかという情報になっています。電子の本ですから、目次から該当ページにはジャンプ させたいところです。

3. 本文

次に、本文ページがはじまります。25枚の絵にはそれぞれコメントが付 記されていますので、本文は絵とテキストによる構成となるべきものでしょう。

作家が最初意図したものは、画面の上部7割ほどを絵に割り当て、その下 に囲みで表題と、コメントが付記されるというものでした《 **愛照**》図-2》。

これでいいのか? 絵とテキストを一緒に配置したいけれど、それでは 絵も本文も縮小され、両者が効果的に表示されるとはおもえません。これ をどうするかが問題でしょう。



絵、本文コメントを一緒に配置

⁽図-2)

4. 関連資料

『アクリル淡彩で描く トタン屋根の風景』の作家は、ほかにいくつもの 作品を書かれていることはすでに触れてきました。これら作品を読んでみ ると、本人が鉄の防蝕という仕事に深く関わっていたからこそトタン屋根 の風景にこだわってきたことが伝わってきます。なみなみならぬ作家の想 いが作品を成り立たせていることに気付かされます。関連資料をどうして も備えておきたいとおもいます。作品の背景にある事実について、少しで も知っておくことの意義は十分あるでしょう。私たちはトタンとブリキの 違いさえよく分からずに今日まで過ごしてきたのですから。『ブリキとト タンとブリキ屋さん』から、一説を転用して関連資料とさせていただきました。

5. 奥付

本には必ず最後尾に奥付という、著者、著作権者、発行者、発行年月日など を明記する部分があります。電子の本においてもこれを明示することは基 本的な姿勢です。

Romancerの会員登録によって、奥付の画像出力サービスがご利用いた だけます。詳細は以下から会員登録して、[出版サポート]の[表紙作成ツール] をご覧ください。

https://romancer.voyager.co.jp/

さて、ここまで全体の本の構成を把握した上で、本文のなかにある絵と文 章コメントの構成について、さらに深く見ていくことにしましょう。

先ほど《 ● 2 》にあった、PDF の絵とテキストの関係は、単一ページ のなかに両者が一緒に存在し、意味がハッキリしているということであっ たとおもいます。けれど一方で、画面の小さい電子端末では、絵もテキスト も縮小して読みにくくなるのが問題でした。

もうすこし絵をゆったりと見せられないか。テキストは明瞭に読めるようにできないか。一度 PDF の固定レイアウトを離れ、どんな電子端末でもいい感じで読めるようにリフロー型でトライしていくことにします。

単一ページに絵もテキストも入れてしまえば、スマートフォンのような 小さな画面では全てが縮小して読みにくくなります。読みやすくするには どうしても複数のページに渡る構成としていかなくてはなりません。

では、絵を先にするのか、テキストを先にするのか、あるいはその逆がい いのか? 特別な決まりはありません。なによりも作家の意思が尊重され るべきものでしょう。ここでは次のように表示の順序を決めました。

対象となる絵の表題。見出しとして表示され、目次項目にもなる。

《 参照) 図 - 3-1 》

次に、対象となる絵をできるだけ大きく表示できるように。

《参照〉図-3-2》

表題を単一のページに扱うことによって、表題、絵、本文がそれぞれの単 一の3ページに分割したことになります。



ー例として対象となる絵の表題「民家1/相模原・上溝」に、Wordのスタイル「見出し1」を設定してみます。(愛照)図-4)

		▼ ×
	▲ すべてクリア	^
■ 1 □ 民家 1 /相模原・上溝。	メイン以外の見出し1 レベル1の目次項目	_ له
		لم
	■ レベル2の目次項目	ب ب
	標準	لم
	行間詰め	4
	見出し1	<u>+/a</u>
	見出し 2	<u>+a</u>
	見出し 3	<u>+'a</u>

MS Word のスタイルで「見出し1」を指定

(図-4)

[見出し1]の設定を行うだけでは、見出しはMS Wordのデフォルトの設 定のままで、見出しの「スタイル」=「見た目」が指定がされたわけではあり ません。「スタイル」とは、文字の、大きさ、書体、文字色、傾き、太さ、段落前 後の空き、などの表示に関することです。ここで自分の意図に最適となる 見出しの「スタイル」を変更してみます。

絵の表題「民家1/相模原・上溝」に、見出し1を設定し、その「スタイル」設 定の手順を図を見ながら説明いたします。

まず[スタイル]ウィンドウを表示させます。[ホーム]タブで右側に[ス タイル]というエリアがあります。そのエリアの右下のボタンをクリック すると[スタイル]ウィンドウを表示します。《 **参照** 図-5》。



[スタイル]ウィンドウで「見出し1」の右側のボタンを押して、ポップアップ メニューから[変更(M)…](Mac版の場合は[スタイルの変更…]以下同)を 選択します。すると[スタイルの変更]ウィンドウが現れます。《 **愛照**>図-6》



文字サイズは、ここではサイズ18(少し大きめ)に設定してみました。対象となる絵の表題ですから、単独でページ中央に、大きめな文字で表題の「民家1/相模原・上溝」が表示されるようにしてみたかったのです。《 **愛照** 図-7》



▶ 文章を少し加えてみたら

『アクリル淡彩で描く トタン屋根の風景』は画集であり、もともと文章 が多い構成ではありません。これをリフロー型に再構成しようというのです。 リフロー型での見え方をPDF版面と比較しながらみていくことにしましょう。

最初に「はじめに」の部分をみてください。「はじめに」のすべてのテキス トをPDFで1ページに収めると、画面サイズの小さいスマートフォンなど では凝縮した版面となって読みにくくなってしまいます。《 愛麗> 図-1 参照》 リフロー型では、「はじめに」のテキストを何ページかに分けて、画面サイ ズに合わせて表示させていきます。ページ数は増えますが、1ページに表示

される文字の情報はゆったりとした適正を保つことができます。

単に画集として絵を見るだけではなく、最初になぜトタン屋根の風景を 描くことになったかを伝える「はじめに」の文章があり、アクリル淡彩のト タン屋根の風景が続き、作家の短いコメントが入り、関連情報「トタンにつ いて知る」が入って、余韻を残して終わるという構成が出来上がりました。

どうでしょうか。トタンに関連する知識を得るために、同じ作家がすで に書いている専門書の一説を、読み物として備えてみたのです。

このようにリフロー型は文字表現に向いていますから、構成の中に少し テキストを加味していく工夫を考えてみていただきたいとおもいます。

▶ 絵をレイアウトしてみよう

画集ですから、できれば絵は大きく見せたいものです。

ページに一枚の絵を配置するようにすれば、画面に対して相対的に最大 の表示ができます。画面を縦にしても横にしても、極端な変化が出ないよ うに配慮する必要もあります。

一枚の絵だけをページに配置するために、画像データの前後に改ページ(ページ区切り)を入れると、ページに一枚の絵を配置するようになります。

絵の表題の後で改ページを入れてから、画像データを挿入します。

画像データを挿入した後、画像データの上で右クリックして「レイアウト の詳細設定」を出します。そして「文字列の折り返し」で「行内」を選びます。 《参照〉図-8》

プアップメニューを表示し ② [レイアウトの詳細設定(Z)…]を選択する ③ [レイアウト]ウィンドウが現れるので[文字列の折 り返し]タブの[行内]を選択する .1 mm 🗧 🖬 🖷 2 + A. mm ? × Ж 切り取り(工) レイアウト 1 ⊐Ľ-(C) 位置 文字列の折り返し サイズ 遇 貼り付けのオプション: 折り返しの種類と配置 × × × × 図の編集(E) 図として保存(S).. 四角(0) 外周(丁) 上下(0) 行内(1) ■ 図の変更(A)... ≒ × 背面(B) 前面(F 唱。 最前面へ移動(R) 電 最背面へ移動(K) 左右の折り返し ○ 面側(S) ○ 左側(L) ○ 右側(B) ○広い側(A) パイパーリンク(I)... 文字列との間隔 2010-77 図表番号の挿入(N)... 左(E) 3.2 mm 💠 上(P) 0 mm - 0-× 文字列の折り返し(W) 〒(M) 0 mm 🔹 右(G) 3.2 mm 🔹 レイアウトの詳細設定(工) 図の書式設定(以). OK キャンセル

画像の挿入と「レイアウトの詳細設定」

- 画像を挿入したら画像の上で右クックしてポッ

(図-8)

- こ女ページ

さて、絵の画像データサイズはどれくらいがいいのでしょうか?

Romancerでは、縦長の画像の場合には、高さ1280ピクセル、横幅800~ 900ピクセルを推奨しています。今回の絵は正方形に近いやや横長の絵で すので、横幅を1024ピクセルにそろえてみました。

画像データの簡単な基礎的知識をここでは述べておきます。画像データ の形式はIPEG(拡張子.jpg)またはPNG(拡張子.png)を想定してください。 画像データにはいくつもその種類がありますが、使われる目的によって適 用が違ってきます。電子の本での利用では、写真ならIPEG形式を、絵の場合 はPNG形式を選びます。ここでの例は画集ですからPNG形式にしています。

デジタルの本としてリフロー型『アクリル淡彩で描く トタン屋根の風景』 ができあがりました。全体をざっと見通してみましょう。

表紙から目次へ、本の印象を鮮明に与える大切な第一歩が表紙だとおもいます。Romancerでは、本の対外的なプロモーションとして紙の本に擬した画像を利用しています。あたかも"本"のような体裁です。この画像をアイコンとして"本"を触ると即ページが開かれる対応を推奨しています。 《 優照 > 図-9 》

本来の表紙となるデザインは必ず先頭ページに配置されます。 《 (参照)図-10》



(図-9)

(図-10)

目次ページは、25枚の絵の表題を表示、そして関連資料、著者略歴まで。 すべて任意の項目へ一瞬にして飛ぶことができます。画面サイズの大きい 環境では、目次を鳥瞰することができるでしょうし、モバイル端末では分割 された何枚かのページで目次を見通すことになります。《 愛照 図-11》



(図-11)

文字中心の版面表示は、典型的にこのようなかたちとなります。本文の ある章の先頭部分を、文字サイズを変えて表示しています。本文文字サイ ズは、電子本の特徴としてサイズ変更が可能です。《参照〉図-12》



(図-12)

本文中に画像を配した場合のモバイル端末での見え方を事例として示しま す。またその場合に、文字サイズを変更した表示についてもご参照ください。 《 参照 > 図 - 13 》



(図-13)

こうして『アクリル淡彩で描く トタン屋根の風景』はリフロー型が公開 されました。Romancer 作品公開広場でどなたでもご覧になることができ ます。以下のURLにアクセスすれば、作品の詳細が表示され、ブックアイコ ンの[読む]を押すことでページが開き閲覧することができます。 《参照〉図-14》

Rt BRCADE international	שיאר-►{0 (1000) (1000) (1000)	
	タイトル アクリル淡彩で描く トタン屋根の風景 ジャンル	
	書籍/小説・文学 著者	
	加藤忠一 公開日 2015年05日07日	
	医新日 2015年06月09日	
	作品紹介 消えゆきつつあるトタン屋根がある光景を、アクリ ル淡彩で描きました。	

(図-14)

http://r.binb.jp/epm/e1_10743_09062015011658

チェックポイント

実際の作例をもとに原稿のつくり方のおおよそのポイントを紹介しました。この外にも実際につくられる際のチェックポイントとして把握してお くべき基礎的な事例を解説しておきましょう。

これらはRomancerに「制作ガイド」として詳細説明が準備されています。 参照してください。「制作ガイド」をご利用いただくためにはRomancer会 員登録が必要となります。ここでご説明する各URLにアクセスする際には Romancerに会員登録し、ログインしてください。

▶ 画像に関して

画像は行と行の間に挿入しよう

ふつう私たちは版面のあり方を紙の本のレイアウトから学びます。それ を真似したいとおもっています。けれど、最初に考えておかねばならない のは、デジタルの本は紙の本とは違うということです。紙の本は一定の版 面のサイズに基づき、固定され、誰もがどこでも同じ版面を見ます。送り手 の意図が常に維持されるのです。これに反してデジタルの本は、読者が閲 覧する版面サイズがまちまちです。人によっては文字の大きさを変えたり します。表示版面はこちらが送り出すものではなく、受けとる読者がそれ ぞれの環境に基づいて設定され変化するものなのです。

ですから、以下のような点については細心の注意が必要です。

特定の位置(右下、左上など)に画像を配置させたいという送り手の意図
 画像に対して、本文が画像を回りこむようにさせたいという送り手の意図
 画像のサイズを指定する大きさ一定に保っておきたいという送り手の意図

ここでもう一度思い出してください。画面のサイズは一定ではなく変化 するのだということ。レイアウトが変わるデジタルの本では、画像を定まっ た位置に配置する考えがそもそも成立せず、流動的に対応しなければなら ないわけです。

画像を文章の途中に配置させるようなことは、できるだけ避けるほうが

参考 画像の挿入方法

https://romancer.voyager.co.jp/imagehandle

Romancerでは、MS Wordでの作図はNG

MS Word 自体に、図を作成する機能があります。けれどMS Word で作成した図はRomancer では正しく変換できません。

図はあらかじめ JPEG または PNG の画像として貼りこむようにしてく ださい。原則として、写真は JPEG 形式で、絵は PNG 形式です。

参考 原稿の作り方(MS Word 編)

5.1.表現自体がなくなってしまうもの

- https://romancer.voyager.co.jp/how2makebyMSword
- 図表・グラフは画像にして貼りこもう

図表は、変換されますが、各種の指定は無視されます。変換された EPUB 3 を読み取る各種 EPUB リーダーの対応に依存するからです。図表は、意 図通りに表示されることは少ないと考えてください。図表は、画像にして 貼りこむことを推奨します。

参考 原稿の作り方(MS Word 編)

5.2. 見え方が異なってしまうもの

https://romancer.voyager.co.jp/how2makebyMSword

▶ 見出しと段落に関して

● 見出しはスタイルで設定しよう

見出しについてもう少し詳しくお話しいたします。

Romancer は、スタイルで見出し(見出し1、見出し2、見出し3)を設定し ておくと、その見出しは自動的に目次に反映される機能が備わっています。 見出し1は「章」とみなし、見出し2は「節」に、見出し3は「項」に、振り当てて います。

見出しのスタイルの設定方法は以下をご覧ください。

参考 原稿の作り方(MS Word 編)

3.2.**見出し**

4.2.見出しの設定

https://romancer.voyager.co.jp/how2makebyMSword

• 段落のインデントはスタイルで設定しよう

引用などを行う場合には、よく段落全体を字下げします。このことをイ ンデントを付ける、と言います。台本の台詞のような場合に、2行目以降を 一律に文字下げするレイアウトがあります。スタイル指定を使って、段落 の設定を行いましょう。《 **愛照**〉図-15》

見た目本位に改行を入れたり全角スペースで行頭をそろえたり、という 方法をとりがちです。画面サイズや文字サイズが変われば、レイアウトが 崩れてしまいます。

スタイルの	D変更 ? ×	段落 ? ×	
プロパティ		インデンルと行期隔 西水ージと西行 体験	
名前(N): ト書き			
種類(T): 段落	v		
其進(rith,7,0,(1)(P) 」 (標准)			
30000000000000000000000000000000000000		アウトライン レベル(Q): 本文 🛛 🖌	
1X048380X217Kg/ 2114g/	V	3	
香式 MS明朝(本文0, ▼ 10.5 ▼ B I U	自動 🗸 日本語 🗸	1)テント (2字) 最初の行(5): 幅(5):	
	二 读 读	石(B) で す。 (なし) ▼ ◆	
前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段	落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落	✓ 1 h(n 文字数を指定時に右のインデント幅を自動調整する(D) 問題	
前の段落前の段落		段落前(B): 0行 会 行間(N): 間隔(A):	
あア亜Ay 1 アイウ Ay123 c"あア亜A	y 1 アイウ Ay123 c*あア亜A y 1 アイ	銀藩後(F): 1行 🖌 1行	
ウ Ay123 c"めア亜A y I アイワ Ay123 ムッ 1 マイウ Av193 c*	5 c"めア亜Ay 1 アイワ Ay125 c"めア亜	□ 同じ2々(ルの場合は鉛落間に2ペー2を追加しない(C)	
次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段	落 次の段落 次の段落 次の段落	✓ 1 ページの行数を指定時に文字を行グリッド線に合わせる(W)	
次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段	落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落	プレビュー	
インデント: 左 2 字、スタイル・クイック スタイル 基準: 標準		作の成さ 許の成さ 許の成さ 許の成さ 許の成さ 許の成さ 許の成さ 許の成立 許の成立 許の成さ 許の成さ 許の成さ 許の成さ 許の成立 許の成立 許の成立 許の成立 許の成立 許の成立 許の成立 許の成立 許の成立 許の成立 小衣子型ム、1 7イフ かには 小衣子型ム、1	
 ✓ クイック スタイルの一覧に追加する(Q) □ 自動的に更和 ● この文書のみ(D) ○ このテンプレートを使用した新規文 	iする(<u>U)</u> 書	アイウ みに20 きか 7 イイン みに3 さ かか 7 イム ション アイション かっとう * お 7 名人 コー イ イイン みに3 さ かっかる 大 小小花 かっかる 大 小小花 たっかる た 小小花 大 小小花 大 小小花 大 小小花 大 小小花 大 小小花 た かっかる たっかる た 小小花 大 小小花 大 小小花 大 小小花 大 小小花 大 小小花	
	ОК ** >セル	表面機器 美面機器 美面機器	
7月ント(E) 段落(E)		タブ設定(D 既定に設定(D) OK キャンセル	
(2) 97EU-第-(I)			
野線と綱かけ(B)…			
言語(L)	Mindows版のMC Mord()	210) ぶの仍装フタイルの訳字士计	
レイアウト枠(M)	VVIIIOOVVS AX UVIVIS VVOID(ZU	川() (の技洛スダイルの設定力法	
箇条書きと段落番号(N)			
ショートカット キー(K)	① '見出しの設定」と回様に[スタイルの変更] ワインドワを表示した後、		
文字の効果(E)	左下の[書式(O)]を押して押してポップアップメニューを表示し		
	② [技洛]を迭折りる		
(図-15)	③ [段落]ウィンドウが現れたら	ら、インデント「左:」の数字を変更する	

参考 原稿の作り方(MS Word 編)

4.3.段落の設定

https://romancer.voyager.co.jp/how2makebyMSword

• 書体(フォント)指定はシステム標準のフォントを使おう

MS Wordを使うと、ご利用のパソコンにインストールされている全ての フォントを指定することができます。しかし使用したフォントがそのまま 使用できる PDF とは異なり、EPUB リーダーで使用できるフォントは、通常 は明朝系、ゴシック系それぞれ1種類です。複数のフォントを指定して見た 目を変えても、Romancer では、明朝、ゴシックいずれかに変換します。基本 的にはMS 明朝、MS ゴシックなど、システム標準のフォントを使うよう にしてください。

参考 原稿の作り方(MS Word 編) 3.4. フォント指定

https://romancer.voyager.co.jp/how2makebyMSword

• 読みにくい漢字にはルビ(ふりがな)をつけてみよう

MS Wordのルビ機能を使うと、本文に、読みにくい漢字などにふりがなをつけることができます。

参考〕原稿の作り方(MS Word 編) 4.5.1. ルビ

https://romancer.voyager.co.jp/how2makebyMSword

• 数字の書き方は統一しよう

数字は、算用数字と漢数字があります。さらに算用数字には全角と半角 があるのです。

縦書きの場合は、原則として、漢数字にそろえてください。

算用数字を使う場合には、全角・半角を意識するようにこころがけてくだ さい。版面での不揃いを避けるためです。

Romancer には「数字の自動処理」という機能があります。この機能を使 うと、全角・半角の数字をそろえるようにしています。2桁の数字は半角に して横に並べ(これを「縦中横」と言います)、それ以外の数字は全角にして 直立させます。この機能は数字だけに働きます。 過度の文字装飾はNG

使用できる文字の装飾は、下線、太字、文字色、斜体、取り消し線です。 二重取り消し線、下線の色、囲み文字、網掛け文字、隠し文字、文字背景色、拡 張書式を使った装飾(縦中横を除く)、袋文字、光彩は変換できません。

参考 原稿の作り方(MS Word 編)

5.2. 見え方が異なってしまうもの

https://romancer.voyager.co.jp/how2makebyMSword

▶ その他

変更履歴は削除したか?

MS Wordの「変更履歴の記録」は便利な機能です。ですが、変更履歴が残っ たまま Romancer で変換すると、変更履歴の箇所は欠落してしまいます。 原稿が完成するまでは、変更履歴の記録は重要ですから、編集用のファイル は残したうえで、Romancer で変換するための原稿として複製を取り、その 複製の原稿で、変換する前に、「承諾」>「ドキュメント内のすべての変更を 反映」を行って変更履歴が残っていないようにして下さい。



(図-16)

あなたの出版を支援する

ボイジャーは一貫して小さな出版を推進する道を歩いてきました。常に 電子的な出版のための方法やサービスをみなさまへ提供してきました。し かし、すべてが満足いただけるものでなかったことも事実です。技術の進 歩と市場の変化によって、せっかくの作品を読むこともできなくなってし まうという最悪の事態に陥ったこともあります。

作品として残るということを一番大きな課題として掲げました。伝えたい 意思を残すものが作品だからです。残すことができない出版を人は認めない だろうとおもいます。自分たちが作品を失ってはじめてそのことを知ったの です。デジタルであろうと何であろうと出版する責任についての自覚でした。

シンプルにつくることを念頭におきました。過度に最先端の技術に依存 することが短命であることを身にしみて思い知らされたからです。作品本 体はできるだけスリムに本文と写真・画像に抑制し、映像や音声は外部リン クに徹底するようになりました。インタラクティブな対応のための特殊な アプリケーション開発はできるだけ避けました。

すべては世界の標準・共通となる技術基準に従ったのです。この姿勢は 作品から不必要な虚飾を剥ぎとり、コミュニケーションに必要不可欠なも のとして、テキスト、画像、映像、音声、という情報要素を禁欲的に対処する 姿勢を育みました。

ボイジャーが体得したものは経験です。技術スキルやデザインスキルで はなく、デジタル出版で起こった幾多の失敗とかすかな成功の経験です。 そこから読者のために、作家のために、何をどうするべきかを示唆できる立 場が生まれたのです。

Romancer は作品の出版・公開ツール

ご自身の意思を作品としてデジタルに残す方法をボイジャーは提供いた します。その出版ツールがRomancerです。2014年夏にテスト導入され、1 年の試用期間を経て本格的な導入となりました。

以下のRomancerページより、今すぐ会員登録して、制作用のダッシュボードから制作を開始することができます。

制作された作品は広く世界に向けて公開できます。できあがった作品に 振られた独自URLを伝えることで、それを知った誰でもワン・クリックで 瞬時にその作品のページが開かれるのです。世界のどこにいようと、 iPhone/iPad、Android・・・・・・どんな端末であろうと、インターネットのも とに本は開きます。

作品の根本となるデジタル・データは、世界の標準・共通基準となる EPUBでつくられます。もっとも信頼を置くことができる、消えにくい"情 報の原液"といっていいでしょう。

▶ 作品の制作協力をします!

Romancerは無料でご利用いただけます。誰もがいつでも利用できる自 由をもつことはとても大事です。一方で、ある利便を使いこなすには慣れ ない手順を体得する学習が必要です。若い柔軟な世代ならともかく、年配 者には何もかもが新奇なデジタル世界の言葉や概念を受け入れるのは限界 もあるでしょう。やりたい気持ちと諦めの綱引きに少なからず悩んでしま います。

制作協力サービスがあなたを支援します。ボイジャーのデジタル出版での 長い経験と実績をみなさまの作品制作に役立てていただきたいとおもいます。 このサービスは有料です。詳細は、Romancerページから、[詳しくはこち

ら]を押し、[有料支援サービス]から情報をご覧ください。

表現から技術、販売まで、それぞれの専門スタッフが皆さまの作品づくりを 支援いたします。ボイジャーの9人の専門スタッフが担当します。

何を訴えたいのか、何を残しておきたいのか、あなたの意思をデジタルで 具現化し、これを世界の一人でも多くの人に届けるために、ボイジャーはこ の世界で培ったあらゆる経験と知識をあなたへ提供いたします。

専門スタッフの詳細は以下よりご覧ください。

https://romancer.voyager.co.jp/your-advisor

▶ 作品の販売協力をします!

デジタルの本は、ホームページやブログとどこが違うのでしょうか? 本は、なにかに付随した読み物というのではなく、作品として独立性があり 単体として独自性をもっています。デジタルの本であろうと、紙の本であ ろうとこれは同じです。独立とか、独自とか、単体とかをもとに、本を販売・ 流通させることが可能になってきます。できあがった作品を人に渡して読 んでもらったり、販売のために書店を通して流通することが可能です。

Romancerを使って制作した作品(EPUB 3形式)を入稿すれば、だれでも 自分の作品を販売することができます。個人でも販売できる書店はいくつ もあります。

問題なのは、こうした書店での販売には複雑な手順を必要とします。書 店との販売に関する条件など契約が必要となります。ネット上でこれを処 理できるようなシステムになっていますが簡単なものではありません。出 版のためのデータを書店に渡すやり方も書店ごとにまちまちです。 Romancerには、こうした面倒な手順を作家から解放し多くの有力な電子 書店で販売していく「販売委託サービス」が準備されています。

このサービスは有料です。詳細は、Romancerページ《 優麗>図-16》から、 [詳しくはこちら]を押し、[有料支援サービス]から情報をご覧ください。

販売可能となる書店の一覧表を以下よりご覧ください。また書店一覧と ともに、お客さまの作品の販売価格に対する受取売上額の想定を明示して おりますので合わせてご参考にしてください。

https://romancer.voyager.co.jp/trustsale



出版を考え直す
 画面サイズと電子本
 絵と文章の構成を考える
 見出しのスタイルの設定
 絵をレイアウトしてみよう
 リフロー型の特徴
 チェックポイント
 あなたの出版を支援する

42 VOYAGER

株式会社ボイジャー http://www.voyager.co.jp/

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-41-14 Tel 03-5467-7070 Fax 03-5467-7080 E-mail rmsupport@voyager.co.jp

> © 2015 Voyager Japan, Inc. Published in Japan Not for Sale.

> > 発行年月日:2015.7.1